

採血管の種類について

臨床検査技師 山田 佳奈



採血をする時どうして多くの本数を取るの？

「採血」と一言に言っても生化学・血糖・血算・免疫学・凝固検査…etc. と様々な項目に分かれています。それぞれの項目に適した採血管を使います。下の表にまとめてあるので見てみましょう。



主な検査項目	採血前	遠心後	検査方法と検査項目
生化学検査 (9ml)			肝機能・腎機能・ナトリウム・カリウム・炎症反応など様々な検査に使用されます。そのため一番大きな採血管を使います。血液が凝固していることを確認して遠心します。試験管の中に白色の「分離剤」が入っていて、これにより『血清』を分離し検査に使用します。
血糖/HbA1c (2ml)			採血後、遠心をして上層の『血漿』で血糖を、下層の『血球』でHbA1cを検査します。採血管の中には粒状の「抗凝固剤」が入っています。これは採血した血液中の血糖値の低下を防ぐ働きもしています。
凝固 (1.8ml)			血液の固まる速さを調べます。凝固検査に必要な成分を阻害しない液体状の「抗凝固剤」が入っています。この抗凝固剤と血液の割合が大切になるため採血量の線が描かれています。採血後、遠心をして『血漿』を分離し検査に使用します。
血算 (2ml)			血算は遠心せずに血液中の赤血球や白血球、血小板の数を算定します。そのため強力な「抗凝固剤」が入っています。



採血管の色・形、検査項目は当院での一例です。施設毎に異なります。

※血清とは…「抗凝固剤」を入れずに遠心分離した血液成分

※血漿とは…「抗凝固剤」を入れて遠心分離した血液成分

※抗凝固剤とは…血液凝固反応の進行を阻止するもの。

採血管により添加されている物は違います。

